

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

新聞広告集

「答えは、CTC。」

アイデアとITを反応させる。



新たなビジネスの創出に向けたオープンイノベーション。

CTCは、システムインテグレータとして培った“つなぎ、組み合わせる力”で
異業種異分野が持つアイデアやノウハウ、データとITを結び、共創を成功に導きます。
研究テーマはなんでもあり。お客様とCTCの新たなリレーションが始まります。

共に未来へ——未来技術研究所、始動。

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

共に未来へ——オープンイノベーション

近年デジタルトランスフォーメーションの進展により、多くの企業がオープンイノベーション^{*1}による新しいビジネスの創出に取り組んでいます。

「CTC Future Factory」は、オープンイノベーションに取り組む企業や自治体等がベンチャー企業と連携し、アイデアを創出するためのプラットフォームです。ITを活用し新規ビジネスの立ち上げを行う「未来技術研究所」を中心にお客様との共創を進めていきます。

CTCにはオープンイノベーションの素地がある

オープンイノベーションは、自社開発だけでなく積極的に異分野・異業種と連携することで、イノベーションを創出する取り組みです。2003年に米国で提唱され、2015年頃から日本でも盛んになり、2016年はオープンイノベーション元年とも言われました。

CTCはもともと海外の先進技術を導入し、それをどう活かすかを考えお客様を支援してきました。また、開発技術を活用して新ビジネスにつなげたいというマインドを持ったエンジニアも多く、オープンイノベーションを手掛ける素地が十分にあります。

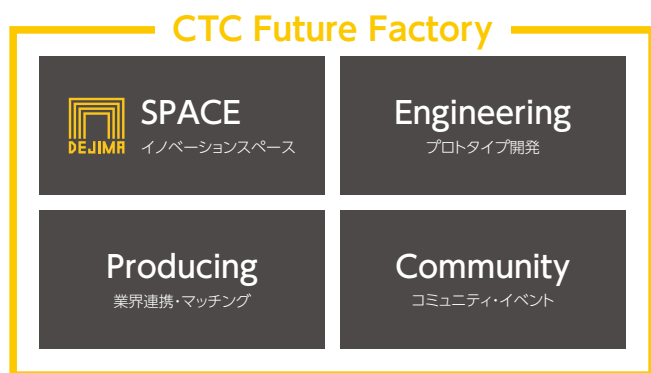
アイデア実現には試行錯誤できる環境が必要

オープンイノベーションには幅広い手法があり、アイデアソン^{*2}やハッカソン^{*3}のほか、投資やM&Aも含まれます。オープンイノベーションでは、お客様の事業の将来像を想像し、市場の潮流を客観的に解釈してお客様と共同で試行錯誤を繰り返すことが大切です。

現在、CTCはオープンイノベーションのイネーブラー(促進役)を目指し、お客様と新ビジネス創出に取り組んでいます。アイデア実現のために、お客様と共に「試行錯誤できる環境」を提供することもCTCの役割のひとつと考えます。

オープンイノベーションプログラム「CTC Future Factory」

CTCでは、オープンイノベーションに取り組む企業や自治体等がベンチャー企業と連携し、アイデアを創出するためのプラットフォーム「CTC Future Factory」を提供しています。アイデアソンやハッカソンの場所や機会を提供し、共同研究や事業化の検討も支援していきます。ITを活用し新規ビジネスの立ち上げを行う「未来技術研究所」を中心に、各段階でのコンサルティングサービスも提供します。



オープンイノベーション専用スペース「DEJIMA」

「DEJIMA」は「CTC Future Factory」の専用スペースです。オープンイノベーション創出に必要な場所と機会を提供し、新しいアイデアを早期にビジネスに取り入れるための、プロトタイプ開発環境を整備しています。

<DEJIMAの特長>

① 360°プレゼンテーション設備

用途に応じて、半円状や360°全面を客席としてプレゼンテーションができる設備を完備しています。柔軟なテーブル配置でハッカソンやアイデアソン等、様々な形式のワークショップに対応できる100名以上が収容可能なスペースです。

② プロジェクトルーム

進行中のプロジェクトのために、個室のプロジェクトルームを用意しています。

③ グループワークショップスペース

少人数用のスペースです。壁一面に設置したホワイトボードを使いワークショップを進められます。

④ アメリカ西海岸とのリモート接続

米国グループ会社ITOCHU Techno-Solutions America, Inc.のオープンイノベーション拠点として開設予定の「Open Innovation Lab」と相互接続し、先端技術を持つ米国のベンチャー企業とのイノベーション創出も実現できます。

CTCは今後も「CTC Future Factory」を中心に、トータルソリューションプロバイダとしてお客様の新たなビジネスモデルやアイデアの創出に貢献していきます。

DEJIMA内観



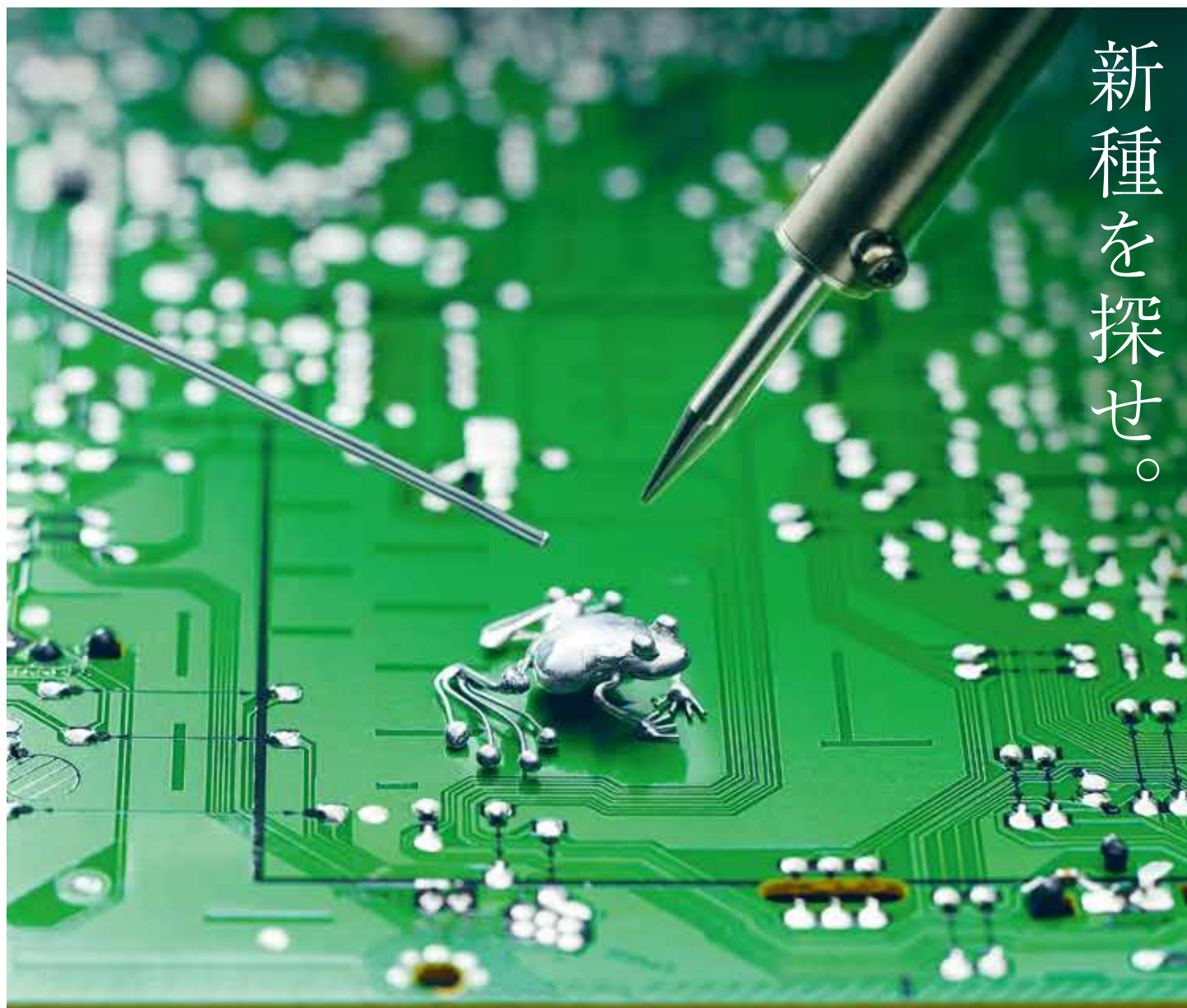
100名以上入れるワークショップエリア

※1 自社だけでなく他社や大学、地方自治体、社会起業家など異業種、異分野が持つ技術やアイデア、サービス、ノウハウ、データなどを組み合わせ、革新的なビジネスモデルや研究成果、製品開発、サービス開発につなげるイノベーションの方法論。

※2 他部署と共同で普段行わないようなイノベティブなアイデア創出を目的に行われる。パブリックなアイデアソンは、オープンイノベーションが目的のことが多い。手ぶらで参加せず仮説を持ち寄るほうが効果的と言われている。

※3 アイデアを出し合い、それを2日程度でアプリケーションの形にする。ファシリテータの他に、ソフトウェアエンジニアやAPI、IT環境等が必要。知名度向上、事業創出、技術やデータの利用促進などを目的に行われる。

新種を探せ。



CTCは、ナノスケールの解析技術を駆使して、新材料の可能性を研究しています。

例えば、電子基板の接合材として優れた特性を備えながら、環境にやさしい鉛フリーはんだ。

材料を変えれば、製品が変わる。製品が変われば、社会が変わる。

CTCは、ITの力でイノベーションを起こしていきます。

共に未来へ——材料解析で、モノづくりを変える。

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

共に未来へ——材料解析シミュレーション

材料を変えれば製品が変わり、製品が変われば社会が変わる。
材料解析ソリューションを含めたITの力で、モノづくりの「変える」を支えていきます。

「はんだ」を知っていますか？

電気を通すため電子部品や基板をつなげる合金です。

電子部品は今では、LED電球から自動車、ロケットまでいたるところで使用されています。小さなものでも大きなものでも電気があるところには電子部品があり、必ずはんだがあります。未だに代わりとなる材料はなく、社会のデジタル化の進展に伴って、はんだの活躍の場もどんどん増えていくでしょう。



すず (Sn) と鉛 (Pb) の合金としてのはんだの歴史は紀元前10世紀頃にまでさかのぼると言われています。183℃という低温で溶解するため作業しやすく、接合力があり、電気抵抗が低いという特性を持つことから、異なる金属を接合する目的で長い間重宝されてきました。しかし、鉛は人に有害です。現在、すずと鉛のはんだに代わる鉛フリーのはんだの開発と実用化が進んでいます。

隆盛する材料開発

新たな材料を開発する場合、近年は材料自体の性能や加工性、製品になった時の性能、さらにコストや資源、環境性能などが求められるようになり、使用される素材も多様化しています。様々な特性を持つ素材同士を組み合わせて「より強く、より軽く、そして安全に長く使える」——夢のような新材料の創出に世界中のメーカーが取り組んでいます。製品の開発サイクルも短くなり、製品化までのスピードも要求されています。

国内トップシェアの材料解析ソフトウェアを提供

CTCは、30年以上前から材料解析に携わっており、熱力学に基づくマイクロ組織の諸性質に関するシミュレーションを中心に、ナノスケール（原子・分子）での物性解析からマクロスケールの機械特性予測まで、マルチスケールな材料解析ソリューションを提供しています。

合金の熱力学特性から状態図を計算するソフトウェア「Thermo-Calc」や、合金の凝固や固相変態のマイクロスケールの組織変化を予測するソフトウェア「MICRESS」を取り扱っており、第一原理計算、分子動力学といったナノシミュレーションにも取り組んでいます。様々な解析・シミュレーションを組み合わせ、品質の高い鉛フリーのはんだ、鋼、メッキなどの合金や炭素繊維系の複合材を含めた新材料の開発に貢献しています。

材料解析からITシステムまで、モノづくりのイノベーションをサポート

製造業の分野では、製品の品質を高めるための生産管理の要素として4M [Man (人)、Machine (機械)、Material (材料)、Method (作業方法)]が提唱されています。また、生産管理以外にも、工程やコスト、在庫、販売などの基幹系、Webやメールなどの情報系など、様々なITシステムがモノづくりの一部を構成します。

CTCには、自動車、家電、建設機械、印刷などの製造分野のITについて、大規模なシステム構築やサービスの提供実績があります。モノづくりに浸透する鉛フリーはんだのように、材料解析から基幹系・情報系システム、拠点間ネットワークまでの多様なITサービスを提供し、夢のある豊かな社会のための製造業のイノベーションを支えていきます。

世の中に、AIと希望を。



自ら学習を繰り返し、人々を追い越すほどのスピードで進化し続けるAI。

その力を効率的なエネルギー利用や交通渋滞の緩和、防災などに役立てれば

みんなの想像を超えた、夢のある豊かな社会をつくりだすことができる。

CTCは、暮らしや産業にやさしく寄り添うAIに取り組んでいます。

共に未来へ—AIで、社会の課題を解決する。

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

共に未来へ——AI(人工知能)

エネルギー資源の枯渇や交通渋滞、インフラの老朽化をはじめとする社会的な課題。そして大規模地震や台風、ゲリラ豪雨といった自然災害。私たちを取り巻く様々な問題を解決する手段として「AI(人工知能)」の活用が目まざまざと集まっています。

AIの進化を牽引する「機械学習」

業務の自動化やチェス、囲碁、クイズなどで人との対戦が話題となっているAI(人工知能)は、1950年代に初めて“Artificial Intelligence”という名称が用いられてから、半世紀以上にわたり様々な形で研究が続けられてきました。

当初は、人の思考に沿ったアルゴリズムを手動でプログラムするような、ルールベースのAI研究が盛んでしたが、ITの普及に伴うデータの増大、コンピュータの処理能力や並列計算技術の向上などによって、近年、「機械学習」に基づくAIが目覚ましい進化を遂げています。

機械学習に基づくAIは、大量のデータを資源として統計的手法でルールやパターンをコンピュータが推定していくもので、データの種類や意図する結果に応じて決定木学習やクラスタリングといった様々な手法があります。中でも、コンピュータの進展と共に可能となり、ここ数年のAIの急速な進化を牽引しているのが「ディープラーニング(深層学習)」です。ニューロン(神経細胞)が情報伝達する仕組みを模倣したもので、今では、画像認識や言語解析などの領域で一般的に普及し始めています。

AIの活用

コンピュータ性能の発展と共にネットワークの高速化とコンピューティングデバイスの小型化も進行しています。様々なものがネットワークにつながることで、日々、リアルタイムで大量のデータが流れるようになります。AIはそのような大量のデータを正確に処理するために役立ちます。データの分析により、今まで見えなかった事象が見えるようになったり、無関係とされていた事象同士が結びついたりすることで、人々は新たな選択肢を獲得し、また新たな活動領域を発見するでしょう。

例えば、声による指示だけで様々な家電の操作や日用品の購入などができるようになり、介護や看護をサポートすることで暮らしを豊かにするAI。また、エネルギープラントにおける発電量の最適制御、交通事故の抑制、異常気象や河川の氾濫をはじめとする防災などに寄与する、持続可能な社会を実現するAI。

そのような夢のある豊かな社会の実現に貢献するため、CTCは、長年培った様々なITを「つなぎ、組み合わせる力」で人と人をつなげるAIに取り組めます。

CTCの取り組み

AIの進化はこれからも加速度を増して、止まることなく続いていきます。しかし、データ解析や予測を含めてビジネスで活用したり、社会の様々なシステムで正しく役立てたりするためには、まだ専門家によるプログラミング技術や既存システムとの連携についての知見が求められています。

CTCは、AI分野で先進的な取り組みを続けているグリッド社と提携し、データサイエンティスト、デベロッパー、AIアナリストなどのスペシャリストの育成を強化しています。また、並列コンピューティングの先進企業である米NVIDIA社のAIスーパーコンピュータの取り扱いも開始しました。このようなAIへの取り組みに基づき、製造、情報通信、エネルギー、金融、物流、科学、農業、防災など、多岐にわたる分野・業種のお客様と力を合わせてAIの実用化への道筋をつけていく、PoC(概念実証)を積極的に行っています。

●グリッド社のAI開発基盤「ReNom」

グリッド社の機械学習/深層学習フレームワークReNomは、深層学習や最適化アルゴリズム、生成モデルをはじめ様々なアルゴリズムをライブラリとして備えています。複雑な設定を必要とせず、各ライブラリを組み合わせることで専門家でなくても比較的容易に自社のビジネスに適したAIを開発することが可能です。

●NVIDIA社のAIスーパーコンピュータ「DGXシリーズ」

NVIDIA社のDGXシリーズは、NVIDIA社が並列コンピューティングやディープラーニングに向けてハードウェアのアーキテクチャを最適化したAIスーパーコンピュータです。画像や音声認識、自然言語処理などのディープラーニングの各種のソフトウェアやDockerによるコンテナ技術を備えており、お客様は環境の準備に時間を費やすことなくディープラーニングに取り組むことができます。

●CTC AI PoC サービス

CTC AI PoCサービスは、お客様の課題を手掛かりに、課題解決のために有用となるデータを精査し、機械学習/ディープラーニングを使用したシステムの実現可能性を検証します。

すべてをつなぐ挑戦。

人と人、そして人を取り巻くすべてのものを
ITという絆でつないだとき、世界はどう変わるだろう。
CTCは、大規模システムの構築を通して培った総合力を生かし、
5G、IoT、クラウドなど様々な技術を組み合わせて、未来を創造していきます。

共に未来へ—ITの力で、明日をつくる。

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

共に未来へ——“つなぎ、組み合わせる力”

IoT (Internet of Things) 時代が幕を開け、スマートフォンやパソコンといったITデバイスだけでなく、家電、自動車、医療機器等、私たちを取り巻く様々なモノがインターネットを介してつながり始めています。IHS Technology調査によると、インターネットにつながるモノ (IoTデバイス) の数は2016年時点で173億個に達し、2020年には300億個まで増大すると予測されています。(出典/平成29年度 総務省 情報通信白書)

IoTの進化を支える5G (第5世代移動通信システム) の登場やクラウドの更なる普及で、あらゆるものがインターネットにつながった先には、どんな世界が広がっているのでしょうか。

デジタル化の波が、世界を変えていく

スマートフォンの普及により、私たちはいつでもどこでも手軽に情報を手に入れられるようになりました。様々なソーシャルメディアを通じて自由にコミュニケーションを交わし、実店舗へ行かなくとも24時間好きな時にオンラインでショッピングができるようになっています。スマートフォンを通して、デジタルデータやインターネットが、今まで以上に私たちの生活に密着したものになりました。

ITシステムは、データを記録するためのシステム (SoR: System of Record) から、人と人、人とモノをつなぎ、関わりを深めるもの (SoE: System of Engagement) へと変化しています。革新的なビジネスモデルやサービス、製品が次々と生まれ、新たな社会インフラを形成し、価値観を大きく変える「デジタルトランスフォーメーション」が様々な分野で起こっているのです。

デジタルトランスフォーメーション

IoTは、従来の産業構造を一変させる可能性を秘めています。モノがインターネットにつながり、あらゆる状況が数値化・データ化され、蓄積されて分析の対象になります。更に、近年急激に進化しているAI技術により、これまで気づけなかったような事象の「見える化」や、業務の自動化が現実のものとなってきています。

センサーから得られるデータやモノ同士がお互いを認識・制御することで可能になる自動運転に加えて、店舗に設置したセンサーから得た情報で購買行動をデータ化しマーケティングに活用したり、IoTデバイスを利用して介護負担を軽減したり、ヘルスケア分野では鋭利にセンサーチップを内蔵し健康管理に役立てたりできるようになることで、ITを活用した豊かな社会への期待が高まっています。

IoTの進展を支えるインフラ:通信ネットワーク、5G、クラウド

モノやヒトから生まれる日々のデータは今後も加速度的に増加していきます。IoT活用の要は、大量のデータと高度な分析技術に基づくリアルタイム性です。それを実現するには、より安定した通信ネットワークを必要とし、2020年始動を目指し開発が進められている5Gや、膨大なデータの格納・分析を安価で実現するクラウド技術の更なる向上も重要となります。5Gには、次世代のIoTを実現するICT基盤としての役割が期待されています。3G、4Gから進化した「超高速」の通信機能に加え、多数の同時接続や遅延のない通信により、様々なIoTデバイスを使用した、情報の収集やモノの制御——例えば、安全な自動運転——が実現されます。

“つなぎ、組み合わせる力”で、次世代のシステム基盤をつくる

CTCは、先進的なITベンダーとのリレーションによる確かな技術とサポート力で、お客様の状況に応じて、ITソリューションやクラウドサービスをつなぎ、組み合わせ、コンサルティングから設計、開発・構築、運用サポートに至るまで総合的なサービスを提供しています。

特に情報通信分野では、大手通信事業者や放送局、ISP (インターネットサービスプロバイダ)、IDC (インターネットデータセンター) などの事業者向けに、大規模ネットワークや大規模データベース、大量のトランザクションの負荷分散処理など、ミッションクリティカルで難易度の高いシステムの構築や運用を担ってきました。

更には、大規模プロジェクトを通して積み上げた知見やノウハウをベースに、5G、クラウドといった技術の可能性を最大限に引き出す次世代のネットワーク構築やその先を見据えることができる人材育成にも力を注いでいます。

“つなぎ、組み合わせる力”をお客様とともに生かしながら、ヒトとヒト、モノとモノ、ヒトとモノを結び、コトとコト (サービス)、さらにはココロとココロまでを結んでいく。CTCは世界のすべてを結ぶ挑戦を続けていきます。

導入事例 1

店舗管理システム

株式会社ファミリーマート様

おむすびやお弁当をはじめ、ATMや各種料金の収納代行、宅急便やチケット発券など、コンビニで取り扱う商品やサービスは、お客さまのニーズに合わせて大きく広がっています。コンビニは今や重要な社会インフラの1つ。それを裏で支えているのがITです。ファミリーマートでは「お客さまへクオリティの高い商品・サービスをお届けし続ける」ことを社会的使命の1つと考え、店舗システムの再構築に着手されました。最大のテーマは、決して止まることのない店舗システムの実現。その実現に向けて、CTCをパートナーとしてお選びいただきました。ファミリーマートはすべての都道府県に店舗展開するチェーンです。日々全国の店舗からストアコンピュータを通じて発注される膨大な情報は集約されビッグデータとして商品の開発等に活用されるとともに、指定工場へ発注データとして送信されます。万一この流れが止まると、工場への発注が止まり、店舗への商品供給に影響をおよぼします。CTCは、関東と関西のデータセンターに無停止コンピュータを設置し両拠点で完全同時処理を行うミッションクリティカルシステムを構築。これにより高い信頼性と常に稼働し続ける環境ができただけでなく、処理時間の大幅短縮も実現できました。「お客さまと、家族のようなおつきあいをしながら、ともに発展していきたい」というファミリーマートの思いを、CTCはこれからも総合ITサービスでサポートしてまいります。

社会インフラでなければ、コンビニではない。



「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp/

CTC

▶ Challenging Tomorrow's Changes

雲の上にお待たせしない窓口があります。

導入事例 2

プライベートクラウドによるインターネット予約サイト

全日本空輸株式会社様

国内線で最大の路線網と乗客数を誇り、世界有数の航空会社であるANA。同社の航空券販売窓口である「ANA SKY WEB」は、1日に約60万人が訪れ、年間売り上げ約4,500億円という、単体企業としては日本最大クラスのECサイトです。ただ、年末年始、ゴールデンウィークといった混み合う時期や「旅割」を一斉に発売する時期は、普段の10倍を超えるアクセスが集中。お客様をお待たせせざるを得ないケースも発生したそうです。また格安航空会社の進出など競争が激化している中、グローバルレベルでの競争に打ち勝つためのコスト構造の変革も喫緊の課題となっていました。こうした課題を解決するパートナーとしてお選びいただいたのがCTCです。着目した技術は、クラウドコンピューティング。同社が自前で保有していた「ANA SKY WEB」をCTCがプライベートクラウドとして構築し、利用量に応じた従量課金モデルとしてご利用いただくというものです。新システムは2つの課題を解決しただけでなく、空席照会機能においては処理速度が従来の10倍、数万におよぶWebコンテンツの頻繁な更新における業務効率の向上など多くの成果を上げています。ANAはクラウドで確立したこのシステム基盤をさらに発展させる計画。雲の上からお客様へ、社会へ、また新たなサービスが広がっていくことでしょう。



「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp/

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

導入事例3

クラウドによるインフラ統合基盤

大和ハウス工業株式会社様

大和ハウス工業は、国内外で130社を超える大和ハウスグループを先導する複合事業体企業です。戸建・賃貸住宅、分譲マンションなどのハウジング分野をコア事業に、商業・物流・医療介護施設、環境エネルギー事業や、ホテル・ホームセンター・フィットネスクラブ運営まで幅広く事業を展開されています。グループのこうした活動を支える業務推進システムは、販売管理、物件管理、部材管理、施工管理、定期点検管理などのほかポータル、スケジュールといった共通機能までほぼ全ての業務を網羅した大規模なもの。同社では、増え続けるシステム負荷の解消と将来グループ全体で使用することを視野に、柔軟で拡張性に富んだプライベートクラウドへの統合を計画されました。パートナーとしてお選びいただいたCTCは、クラウド化、仮想化における高度な技術と豊富な経験を活かし同社の厳しい要件を満たすクラウドによるインフラ統合を2ヵ月半という短期間で完了。保守、監視、運用も含めたオンデマンドサービスとしてご提供しました。現在はグループ会社もこの快適なインフラを活用、人的リソースをビジネスに集中させることで環境の変化に迅速に対応できる体制を確立されています。同社は今後この基盤をベースに顧客関連のビッグデータを活用して新商品や新事業を開発するなど、よりよい社会、よりよい未来づくりに向け活動を広げていきたいとお考えです。

住まいには夢と技術が詰まっている。
システムも同じです。



「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp/

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

導入事例 4

豊かなコミュニケーション社会を実現するLTEのシステム

KDDI株式会社様

スマートフォンの急速な普及とLTEサービスの進展により、モバイル通信でやり取りされる情報量は加速度的に増加しています。「au」ブランドを展開し、現在4,000万契約を超えるお客様を抱えるKDDIは、通信量の急増を早くから予測し通信インフラの回線を太くするなど先手先手の対応を進めてきました。ただし、回線を太くするだけでは問題は解決しません。全国に網の目のように張り巡らされた通信ネットワークを高速道路にたとえると、2車線を4車線、6車線に拡張すると同時に、高速道路同士を相互接続するジャンクションの機能も高めないと、そこがボトルネックとなってしまいます。インターネットの黎明期から今まで常にパートナーとして同社のシステム改革をお手伝いしてきたCTCが、このジャンクションにあたる部分のシステム設計、構築を担当。技術革新をすばやく吸収し最適な機種を選定、お客様の望むシステムにうまく適合させ組み込むというCTCの強みとノウハウが、KDDIの複雑で大規模な通信インフラでも大きな成果をあげることができました。人々の仕事や暮らしに欠かせないツールとしてスマートフォンの役割はますます大きくなっていくでしょう。便利なサービスや楽しいコンテンツもたくさん生まれてくることでしょう。その未来を通信インフラでしっかり支えたい。これからもKDDIとCTCのチャレンジは続きます。

スマートフォンの難問をスマートに解決しました。



「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp/

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

品質のリレーに、ゴールはない。

導入事例 1

統合生産システム

アサヒビール株式会社様

「アサヒスーパードライ」を筆頭に酒類、飲料など幅広い商品を取り扱い、圧倒的なブランド力を誇るアサヒビール。需要予測に基づく生産計画から原材料の調達、全国の工場の生産管理、さらには会計処理まで、ものづくりに関わるあらゆる情報を一元化する統合生産システムを構築しています。いつものおいしさをお客様へ、商品の安定供給を支えるこのシステムをトータルマネジメントしているのがCTCです。工場ラインを振り分けて定番から季節商品まで柔軟に生産し、ときには数日先の需要を見通して原材料の仕入れなどを迅速に調整する。商品のクオリティーを維持しながら生産性を高めるには業務間のスムーズな連携が欠かせません。CTCは、高度な技術と豊富な経験を活かし円滑な業務の流れを支えています。新鮮な価値の創造を通してお客様と感動をわかちあうために、今日も続くアサヒビールのものづくり。その不断の取り組みをこれからもパートナーとしてサポートし続けます。

「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

ビッグデータで世の中をアップデートする。

導入事例 2

ハイパースケールのビッグデータ基盤

ヤフー株式会社様

日本最大級のポータルサイト「Yahoo! JAPAN」を運営し、検索、ニュース、ショッピングなど100を超えるインターネットサービスを提供するヤフー。これらのサービス利用から生み出されるビッグデータは、ユーザーのニーズを探り、サービスの価値を高めていくための重要な資産です。しかし、スマートフォンの普及によるトラフィックやデータ量の増加に伴い、データの蓄積・解析へのさらなる対応が必要になりました。その対策として同社は新たなデータセンターを米国に開設しました。このプロジェクトにおいてCTCは世界の最新動向と技術革新を視野に入れた低コスト・低電力仕様のシステムをご提案。お客様の望みに合わせて最適な技術や製品を選定し、組み合わせ、形にしていく強みとノウハウを生かし、ハイパースケールのビッグデータ基盤の構築をお手伝いしました。新設されたデータセンターは、膨大なデータを生きた情報に変え、生活やビジネスのスタイルを変える新たなサービスを作り出す力になっています。CTCはお客様と共に明日を見つめ、挑戦していきます。



「答えは、CTC。」

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 www.ctc-g.co.jp

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
www.ctc-g.co.jp